



陰影段彩余色立体地図

「企画展示 伊能忠敬と日本地図」を開催しました。

文政元（1818）年5月17日、伊能忠敬は73歳で亡くなりました。今年が没後200年にあたります。また、毎年6月3日は、測量法の公布日（昭和24年6月3日）を記念して、「測量の日」と制定されています。

そこで、当館では展示コーナーで、5月15日から6月3日の間、日本全国を歩いて測量し、正確な地図を作った伊能忠敬の人生と業績を中心に、日本の地図作りの歴史を紹介する企画展示「伊能忠敬と日本地図～正確な地図を求めて～」を開催しました。

この展示では、当館の所蔵資料に加え、国土地理院四国地方測量部のご協力をいただき、「伊能図」のレプリカ等の提供を受けて展示しました。「伊能中図」は床面に展示し、上を歩くことができたので、しゃがみこんで眺めている方もいました。

また、関連展示として3Dメガネで見ると南海トラフの深さが体感できる「陰影段彩余色立体地図」や、児童向けの「読んでみて！地図の本」展示も行いました。

平成29年度 香川県立図書館の統計データがまとまりました！

	開館日数	入館者数(人)		* 個人貸出(冊)	
		合計	1日平均	合計	1日平均
平成29年度	288	448,778	1,558	909,422	3,158
平成28年度	298	476,543	1,599	948,870	3,184
増減	▲ 10	▲ 27,765	▲ 41	▲ 39,448	▲ 26

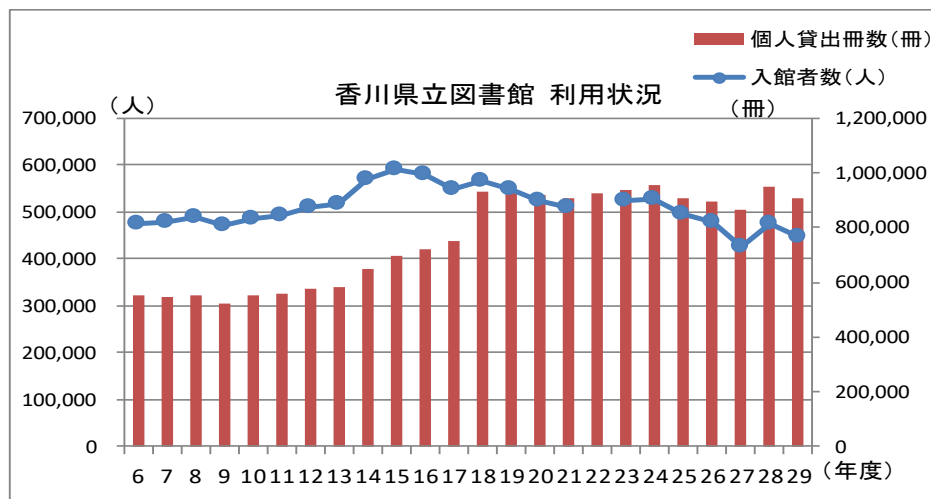
* 団体貸出と図書館への貸出を除いた、個人の利用者への貸出冊数

右の図は、開館から、平成29年度までの利用状況のグラフです。

平成29年度は、図書館システム改修に伴う休館により、例年よりも開館日数が10日ほど少なくなっています。

県立図書館では、今年度も、蔵書の充実や、さまざまな展示・行事を予定しています。

どうぞご利用ください！



* 平成22年度の入館者数は、機器の故障により未測定

※詳しい統計データは香川県立図書館ホームページをご覧ください。
<http://www.library.pref.kagawa.lg.jp/>

レファレンス日誌から 第1回

連載再開



～『武営』の読みは、『ぶえい』『たけなか』?』の巻～

高松出身の中野武営という人物がいます。明治から大正時代にかけて活躍した政治家、実業家です。県外の方から、この人の名前の読みは「ぶえい」なのか? 「たけなか」なのか? との問い合わせがありました。早速、いくつか人名事典を調べてみましたが、「ぶえい」と読んでいるものと「たけなか」と読んでいるものがありました。

今度は郷土資料コーナーで中野武営について書かれた本を調べてみました。

すると、「中野武営翁の七十年」という本には「中野翁の武営という名は、何と読むのか、一般には解せなかったもので、之はたけなかです。」という説明がありました。確かに漢和辞典で「営」という字を調べても「なか」という読みは見当たらないので、知らなければ「武営」を「たけなか」とは読めません。

また、「郷土に輝く人々第1集」という本には「『武営』と書いて『たけなか』と読むのは難しいため、『ぶえい』と呼ばれて親しまれていた」とありました。

この2冊の本から、「たけなか」が正しいが「ぶえい」という読みも許容されていたらしいということが判りました。

そういえば、郷土の文豪、菊池寛の名前の読み方も「かん」が定着していますが、「ひろし」が本名です。人名読みの難しさと郷土資料の重要性を感じた事例でした。

<参考文献>

- ・中野武営翁の七十年 薄田貞敬/編 中野武営伝記編纂会 1934.11 (K2890 N5)
- ・郷土に輝く人々 第1集 青少年育成香川県民会議/編・発行 1970.1 (K2810 S2 1-1B)

この本オススメです！

～星の本～

今年10月、「星空の街・あおぞらの街」全国大会が高松市で開催されます。

これは、星空観察などの身近な方法で大気環境の保全意識を高めるとともに、郷土の環境を生かした地域おこしの推進を図るため、平成元年から毎年全国各地で開催されているものです。

そこで今回は、「星の専門家」「香川と星」「星の絵本」の観点から星の本を3冊選んでご紹介します。



『星の声に、耳をすませて』

林完次／写真・文（講談社）2013.9
（請求記号：4400/H5/6）

天体写真と関連する言葉や物語を綴った『宙ノ名前』（光琳社出版）がベストセラーとなった、林完次さんの自伝的著作です。本当に星が好きで、読者にもその魅力を伝えたいと願っているのが、ひしひしと伝わってくる文章です。

とくにお薦めなのが、林さんが回り道をしながら「本当にやりたいこと」に辿り着くまでの過程です。10代の若い読者にとって、将来を考える上での羅針盤となるべき一冊です。



『瀬戸内海一星と暮らした人びと』

北尾浩一／著（大阪科学振興協会中之島科学研究所）
2013.3（請求記号：K4438/K1）

瀬戸内海における日本古来の星名や伝統的な星と人とのかかわりについての調査報告書です。

香川県においても、瀬戸内海に面した地域で聞き取り調査が行われています。星を日本古来の伝統的な星名で呼び、星の位置によって時間や潮の干満の時刻、方角を知った、星とともに暮らした香川の昔の人びとのようすが分かる本です。



『星どろぼう』新版

アンドレア・ディノト／ぶん，アーノルド・ローベル／え，
八木田宜子／やく（ほるぷ出版）2011.12
（請求記号：J/L5/49）

幼い子どもが、夜空に手を伸ばし、星に触れようとがんばっている姿は、愛らしいものです。でも、それが「星どろぼう」だったとしたら？

星にさわりたいくてたまらない一人のどろぼうが、空の星を全部ぬすんでしまいます。こまった村人たちは、知恵をしぼって、星をとりかえそうとします。はたして、村人たちは、無事、星をとりかえすことができるのでしょうか。

●平成30年4月1日、「みとよ未来図書館」が開館しました！

三豊市高瀬町図書館が老朽化のため閉館したことにより、「みとよ未来創造館」の1階に新たに「みとよ未来図書館」が開館しました。現在の蔵書冊数は、約4.4万冊（一般書約28,000冊、児童書約16,000冊）です。



「みとよ未来図書館」
入口は、こちら



三豊市役所前にある「みとよ未来創造館」



特徴1 ゆったりとした閲覧室

館内に入ってすぐの場所には、まるで大木を思わせるような閲覧スペースが広がっています。

①



特徴2 子どもが探しやすい高さの本棚に本がずらり

①大木を思わせる閲覧スペースの内側が子どもの本を配架している本棚に。親子で落ち着いて本が読める場所になっています。

②窓際の低い書架には絵本が並んでいます。

★ほかに、0～2歳児向けの絵本や子育て関連の本を配架した絨毯敷きの「赤ちゃんコーナー」もあります。（詳しくは、当館発行「子育て支援コーナー通信6月号」で紹介していますので、そちらをご覧ください。）

②



特徴3 読書や調べ物のできる

「インテリジェンスコーナー」を設置

おもに一般書が配架されている当コーナーでは、読書を楽しんだり、調べ物や学習にも利用できます。

●ご利用等に関するお問い合わせ先・みとよ未来図書館

〒767-0011 三豊市高瀬町下勝間2347番地1 ☎0875-72-5631

●開館時間延長のお知らせ●

県立図書館では、7月から9月まで、毎週金曜日の開館時間を1時間延長し、午前9時から午後8時までとします。

夏の週末、ゆっくりと読書や調べものにご利用いただけます。お仕事帰りにもお立ち寄りください。

皆さまのご来館をお待ちしています！

編集・発行 香川県立図書館

〒761-0393 高松市林町2217-19（香川インテリジェントパーク内）

TEL 087-868-0567 FAX 087-868-0607

<https://www.library.pref.kagawa.lg.jp/>